

市内各地で行われたイベントや、
まちの話題をお届けします。
ここで“なかゆくい”しませんか。
(なかゆくい=ひと休み)



市ホームページ「うらそえボックス」
にも市内のできごとを紹介しています。



12/3・4 公民館ミニまつり3年ぶりに開催!

新型コロナウイルスの影響で2年間中止となっていた公民館まつりでしたが、「今できること」を検討し、例年とは違った形で、『公民館ミニまつり2022』が開催されました。

公民館講座で、中央公民館の玄関黒板を「チョークアート」で彩ってくれた中高生がオープニングセレモニーに参加し、まつりを盛り上げました。館内では、サークルの活動見学会、各サークルや放課後子ども教室の活動を紹介するパネルおよび自治公民館講座の各団体の報告書や、水彩画講座受講者の作品なども展示され、3年ぶりのまつり開催は多くの方が訪れ、にぎわいがみられました。



11/26 オレンジリボンたすきリレー

児童虐待防止の象徴であるオレンジリボンを繋いで、子どもへの虐待防止を呼びかけるリレーが県内で初めて開催されました。

走行距離は、児童相談所虐待対応ダイヤルの「☎189」にかけた市内18.9kmのコースで、約50人のランナーがたすきを繋いで走りました。ランナーとして参加した桃原さんは、「天気も良く、気持ちよく走ることができた。来年も参加してオレンジリボン運動を広めたい」と爽やかな汗と笑顔で話しました。

また、サンエーパルコシティでは、てだ子が啓発チラシなどを配布し、子どもへの虐待防止を呼びかけました。



11/20 まちを守る消防士のお仕事体験

子どもたちに、防火や防災の大切さを伝えるため、第13回でだこキッズファースト ファイヤーフェスタが市消防本部で開催されました。

当日は保護者を含めて300人を超える参加があり、心臓マッサージを施したり、クイズ形式で緊急時の処置を学んだほか、テント機材を使った濃煙体験や、放水体験、はしご車への搭乗など、さまざまな体験をしました。

また、展示コーナーでは、消防車両や消火活動に必要な道具を間近に見ることができました。

参加した児童は「将来は消防士になりたい」と夢を膨らませ、親子で楽しみながらも防火・防災について身近に感じ、学ぶことができる良い機会になりました。



12/11 三山時代の城壁が令和に現る

浦添城跡で、14世紀の後半頃に造られた城壁が発見され、一般向けに発掘現場見学会が開催されました。今回見つかった城壁は、高さが2.5m、幅は30mで布積みという技法で造られており、当時の土木技術を知る貴重な手がかりとなります。

見学会には約700人が訪れ、参加者からは「城壁を見ている間、造られた工程など、その時代に思いをはせていました。めったにない機会なので今回来て良かったです」と歴史的な発見を前に興奮した様子が伝わってきました。



11/27 桜のまち浅野浦宣言記念式典

浅野浦自治会では、未来のまちづくりに向かって「桜のまち浅野浦」を宣言しました。小春日和のなか、式典では、地域で桜を増やす活動はもとより、心の中で春らんまんときき続ける自治会活動を目指していくことを宣言し、ロゴ制作で協力した浦添工業高校生の皆さんへの表彰や記念植樹などが行われました。

銘苅秀盛自治会長は「今後は出産や結婚記念など、桜が各家庭の記念樹になるよう、希望する家庭へ苗を配布していきたい」と意気込みを話しました。



11/24 サーターグルマなど昔の民具に大興奮

内間小学校の3年生が、社会科の授業の一環で歴史にふれる館を訪れました。子どもたちは、大豆を石臼ですりつぶしてきな粉にしたり、洗濯板を使って手ぬぐいを洗う体験などを行いました。さまざまな民具体験の中で、特に人気のサトウキビを搾る体験では、西原在住の棚原正治さんから寄贈されたサーターグルマ(砂糖車)に、子どもたちが硬くて丈夫なサトウキビを差し込むと、サトウキビの汁が搾られていく様子に歓声があがりました。

民具体験を満喫した子どもたちからは「石臼とサーターグルマが一番楽しかった」「また来たい」と初めての体験を振り返りました。



11/20 「ハレルヤ」が響く、3年ぶりの演奏会

合唱とオーケストラの祭典である、第48回メサイア演奏会がアイム・ユニバースでだこホールで行われました。美ら島おきなわ文化祭2022に合わせて開かれた今回の演奏会では、楽器演奏者や合唱隊として県内外から120人が集い、迫力ある歌声と重厚な旋律で観客を魅了しました。

演奏を聴いた新垣さん夫妻は「メサイア演奏会は2回目ですが、今回もすばらしかった」「主人の76歳の誕生日に、良い記念になりました」と美しい演奏を振り返り、嬉しそうな様子で話しました。